

道徳科の評価方法の工夫

－道徳科の目標に基づく評価－

Evaluation Methods and Techniques of Moral education class

－Evaluation based on Moral education class objectives－

増井 眞樹

Maki Masui

要旨 (Abstract)

平成30年度から始まる道徳科の評価について、「指導と評価の一体化」の趣旨に基づき、道徳科の目標の達成に向けての具現化が重要であろう。評価方法については、種々挙げられるが、児童生徒個人内の成長の過程を重視する個人内評価は、他者評価を介した自己評価が重要な役割を担うのではないかと考える。児童生徒が主体的に道徳性を養うためには、他者からの評価を受け止め、改めて自分自身を見つめる作業が欠かせないのではないだろうか。そのための振り返りシートを作成し、授業毎の振り返りと学期毎のおおくりの振り返りを提案する。更に、平成30年度からの実施のむけた「道徳科の評価」の手順を示す。

キーワード：指導と評価の一体化 道徳科の目標 個人内評価 自己評価 振り返り

I. はじめに

道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議による『特別の教科 道徳 の指導方法・評価について（報告）』（2016）では、評価の基本的な考え方として、児童生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の側からみれば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料、つまり、指導と評価の一体化を示唆している。

続いて、評価に当たっては、他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこととしている。そのため、児童生徒が一年間書きためた感想文をファイルしたり、年間35時間の授業という長い期間で見取ったりするなどの工夫が必要であり、数値による評価ではなく、記述式とし、個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえて評価するとある。加えて、調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用しないとしている。

次に、指導要録への記載については、以下のように述べられている。

当面、一人一人の児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じて、①他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか（自分と違う意見を理解しようとしている、複数の道徳的価値の対立する場面を多面的・多角的

に考えようとしている等) ②多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか(読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている、道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え考えようとしている等)といった点に注目して見取り、特に顕著と認められる具体的な状況を記述することが妥当である。

これは、道徳科の目標「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」を具現化したものであると考えられる。

一方で、道徳科の評価については、形成的評価(パフォーマンス評価)、自己評価、道徳的諸価値の理解に関わる評価、総括的评价(ポートフォリオ評価)、エピソード評価などが挙げられる。それぞれの評価を吟味した結果、道徳科の評価が他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認める個人内評価であると捉えると、他者評価を介した自己評価が有効だろうと推察される。道徳教育及び道徳科は、児童生徒が主体的に道徳性を身に付けることを目指している。児童生徒が主体的に臨めるのは、振り返りながら自己評価を重ね、自己の成長を確認できる時である。その際、他者の言葉が背中を押したり、新たな自分に気付かされたりすることで、より客観的に自分自身を見つめ、確かな自己評価につながるだろう。

以上を踏まえて、道徳科における自己評価の重要性を明確にし、自己評価の方法を検討工夫し、来年度から実施される道徳科の評価に活かしたい。

Ⅱ. 道徳科における自己評価の意義

古川(2016)は、自己形成や自己効力感の土台としての自己評価の意義から、「自己評価」の重要性を述べ、「自己評価は、学習者の内面に関する手軽で便利な評価手法の一つというだけのものではない。教育の中に自己評価を取り入れるということは、単なる評価手法を超えた、もっと深く広い意味を孕んでいる。つまり教育そのものの重要な手立てとして、本質的な意味を持つものと言ってよい。」という梶田の言葉を引用している。一方で、自己評価の問題点については、①学校教育のみならず生涯学習の学びの中で捉えなおすものである。②評価方法や評価道具として、狭い意味で捉えている。を挙げている。

自己評価には、現在の成果を評価する場面や、過去からの自分を振り返り現在の成果を評価する場面がある。そして、現在の自分を評価した上で、未来の自分の姿を描いたり、課題を明らかにしたり、決意を表明したりすることもある。数値で表される場面もあるが、大方は文章で表現されることが多い。

道徳科における自己評価は、その特質から考えて、自分の生き方を考える振り返りそのものであるとも言えよう。

Ⅲ. 自己評価の内容

指導と評価の一体化の趣旨に沿って、評価の内容を検討するならば、筆者は、道徳科の目標「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」を吟味すべきだと考える。ここには、道徳科の授業で、児童に何をどのような方法で理解させるのか、児童に何をどのように考えさせるのかが表されている。

まず、道徳的価値を理解するという内容には3つあり、「道徳的価値が大切だと理解する」「しかし、実行するの

は難しく、できない人間の弱さを理解する」「その道徳的価値を行う行わないには様々な考え方があることを理解する」ことが児童への課題である。その上で、「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める」のである。これらを自己評価の項目として整理してみると、以下のようである。

- ① 道徳的価値の大切さを理解したか。
- ② 道徳的価値を実行するのは難しく、できない人間の弱さに気付いたか。
- ③ 道徳的価値を行う行わないには様々な考え方があることに気付いたか。
- ④ 道徳的事象に対して「自分ならどうするか」と考えたか。
- ⑤ 道徳的事象を違う立場から考えたり、自分と違う意見に共感したりすることがあったか。
- ⑥ 自分の生き方について気付いたことがあったり、これからの生き方について考えたりしたことがあるか。

Ⅳ 自己評価のための振り返りシート

前述から、他者評価を介したり、相互評価したりする自己評価で、児童生徒が主体的に道徳性を養い、人間形成につながるのではないだろうかと推測し、下記のような振り返りシートの作成実践を行った。

表1 振り返りシート

道徳教育の指導法A振り返りシート		学籍番号（ ）	氏名（ ）
	心に残っていること	振り返りへのコメント	
1 道徳的価値の理解ができたか。 「道徳科の授業で、〇〇は大切だけれど、実行するのは難しいと気づいたことがありますか。あれば書きましょう。」		() 番について () より	
2 多面的・多角的に考えられたか。 「自分とは違う考え方に気づいたことはありますか。どんなことがありましたか。」		() 番について () より	
3 自分事として考えられたか。 「登場人物について『自分だったらどうするか』と考えることができましたか。具体的に書いてください。」		() 番について () より	
4 自分の生き方について考えることができたか。 「道徳科の授業で、自分の課題や目標、希望、夢などを考えたことがありますか。具体的に書いてください。」		() 番について () より	
友だちのコメントを読んで気づいたり、考えたりしたこと		() 番について () より	

1 時期

模擬授業「はしの上のおおかみ」「青の洞門」「ロレンゾの友達」3回の終了時 20分間

2 対象

奈良学園大学人間教育学部3回生「道德教育の指導法A」の受講生 32名

3 方法

(1) 前述の振り返りシートを配布し、これまでの模擬授業で心に残っていることを記入

(2) 心に残っていることに対して、他の班員がコメント（応援メッセージ）を記入

(3) 班員のコメントを読んで、気づきや考えたことを記入

4 成果

「心に残っていること」「他者からのコメント」「気づき・考え」が関わりを持っている内容の抜粋

表2

心に残っていること	友情について考えた時、友達のことを無条件で信じるのが本当に実行できるかは分からないと思った。
他者からのコメント	友だちの定義は難しいですね。
気づき・考え	「ロレンゾの友達」から「友情」や「友達」と簡単に口にすることができるが、それが一体何なのかよく解らないと思った。
心に残っていること	「ロレンゾの友達」から、信頼する友達はあると思っていたが、この授業で本当にそうなのか心配になった。友情について自分なりに考えようと思う。
他者からのコメント	自分が信頼していれば、相手も信頼してくれるよ。
気づき・考え	いろいろな考え方があるのだと思った。
心に残っていること	「ロレンゾの友達」で本当の友達について改めて考えようと思った。
他者からのコメント	しっかりと自分事として考えられていると思った。
気づき・考え	客観的に意見を聞くことで、自分を見つめ直し、改善したり良いところを伸ばしたりしていけると感じた。人の意見を聞き入れることは大切だと思った。
心に残っていること	「青の洞門」からこういった生き方をしてみたい。
他者からのコメント	自分の理想の生き方ができるように頑張ろう！
気づき・考え	現実のリセットできないゲームだと思った。人生は難しいので、よく考えて行動しないといけないと思った。
心に残っていること	相手に自分の思いを伝えられる人と伝えられない人がいるから、友達を思いやって、まず何をしたらいいのかを考えて行動したいです。
他者からのコメント	人に何かを伝えることの難しさは私も感じました。がんばろう。
気づき・考え	人に意見を言ってもらえることはとても嬉しい。友達は大切だが難しい。
心に残っていること	本当の友達とは、相手のことを想って言動することだと思ったけど、実際生活している時にあまり思っていることも言えないので、言葉にすることは難しいと思った。
他者からのコメント	相手のことを想ってという表現から優しさが伝わる。
気づき・考え	褒められて嬉しかった。今後に生かしたい。

心に残っていること	「はしの上のおおかみ」から親切心は大切だけど実際に人に親切にするのは難しいと気付いた。親切にするということは、時に自分を犠牲にして他人のためにしてあげることだから自分の欲求を抑えることは大変だと思う。
他者からのコメント	自分の欲求を抑えすぎたらしんどくなるから、そこでお互いが思いやれるように頑張ろう。
気付き・考え	色々な意見があり、どれも正解で否定することはできないので、周りの意見を受け止めることも大切だと思いました。
心に残っていること	「青の洞門」について、人を殺してしまって罪悪感があるとは言え、何十年も穴を掘り続けるという精神力はすごいと思った。自分もやりたいことを継続することが大切だと思った。
他者からのコメント	やりたいことを本当に頑張ってほしいと思います。
気付き・考え	みんな共感してくれてよかったです。
心に残っていること	友達を信頼することは大切だが疑ってしまうこともある。
他者からのコメント	友だちを信じるのが大切だとわかりましたね。
気付き・考え	自分が実行するためにはどうすればいいのかを考えていきたい。
心に残っていること	「ロレンゾの友達」で今の世の中には知らないふりをしている人が多いということに気付いた。
他者からのコメント	自分も大学に入ってこのことについて考えるようになりました。
気付き・考え	知らないふりをしている人が多いことについて考えることはいいことだと思った。
心に残っていること	「ロレンゾの友達」でアンドレ、サバイユ、ニコライ以外の「知らないふりをしておく」という考えもあるということ。
他者からのコメント	全員に友達という同じことが根底にあるのに、結果として違うのは人としての面白さだと思います。
気付き・考え	共感されてよかった。

他者からのコメントを受けた後の気付きからは、共感を受けた喜び、多面性の理解、他者評価への関心が高いことが推察される。実際、友達の考えを読んだり、コメントを読んだりするのに時間をかけており、20分間では時間が足りない様子の学生の姿が見られた。学生が道徳性を主体的に養うためには、他者評価が重要な役割を持っていると考えられる。このことから、他者評価を介した自己評価は中学生や小学校中・高学年の児童にも効果的であると考えられよう。しかし、小学校低学年では、書く力が十分でないことを考慮すれば、実践は難しいと考えられる。そこで、授業中の教師の発問に対する児童の反応を言い換えるなどを行い、「・・・(子どもの言葉で道徳的価値を表現)・・・、同じように思った人はいるかな」と学級全体の児童に返し、道徳的価値を明確にしたり、自分と違う考えに気付かせたりする工夫が必要であろう。

前述のシートは、おおくり(学期毎)の振り返りシートである。授業毎の振り返りシートについても道徳的価値の理解を問う項目や自分事として考える項目を設定したい。低学年では吹き出しに書かせ、他者評価の時間的な課題に対しては、重点指導に限定するなど工夫を図りたいところである。

V. 学年末までにしておくこと

平成30年度からの小学校における道徳科の評価に向けて、平成29年度末までに準備しておくことをまとめた。その中でも特に重要なのは、指導と評価の一体化を意識し、まず、道徳教育の重点を検討する。次に、年間指導計画を作成する。その際、新たに導入される教科書の扱いや教材変更などについての共通認識を持つ。その上で、評価の手順や方法の具体について共通理解を図ることだろう。

- 1 道徳教育全体計画の見直し (1)学校教育目標の見直し (2)道徳教育の重点
- 2 学年毎の年間指導計画作成
(1)主題の設定と配列を工夫する。(2)計画的、発展的な指導ができるように工夫する。(3)重点的指導ができるように工夫する。(4)各教科等、体験活動等との関連的指導を工夫する。(5)複数時間の関連を図った指導を取り入れる。(6)特に必要な場合には他学年段階の内容を加える。(7)計画の弾力的な取扱いについて配慮する。(8)年間指導計画の評価と改善を計画的に行うようにする。
- 3 評価方法の共通理解
(1)評価方法の手順の共通理解 (2)道徳ノートの使い方 (ポートフォリオ)、教材の変更
(3)授業毎・重点的指導授業毎・学期毎の振り返りシート等 (4)通知表への記載 (5)指導要録への記載

VI. おわりに

道徳科における自己評価は、単なる評価ではなく、児童生徒にとっては学びである。自分を振り返り、自分の成長を確認したり、課題を明らかにしたりして、未来への展望を持つことができるであろう。特に指導者や友達の評価を介した自己評価は、一層主体性が発揮され、生涯にわたる人間形成につながると期待できる。

他者への評価に際しては、「応援メッセージを込めよう」と伝えた。評価が友達への勇気づけになったり、考え方や生き方にもつながったりすることを期待したからである。児童生徒にとって、応援メッセージを込めた会話が日常化すれば、児童生徒のよりよい人間関係の構築に近づくだろう。「道徳の時間」が「道徳科」に変更された趣旨にも沿うだろう。

文献 (References)

- 1) 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議『特別の教科 道徳 の指導方法・評価について』(報告) 2016
- 2) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』2015
- 3) 柳沼良太「子どもが考え、議論する問題解決型の道徳授業事例集 小学校」図書文化2016
- 4) 古川 治「ブルームと梶田理論に学ぶ」ミネルヴァ書房2017
- 5) 田沼茂紀「新教科道徳の評価」『新教科・道徳はこうしたら面白い 押谷由夫 諸富祥彦 柳沼良太編』図書文化2015